

原水協活動 FAX News

発行: 原水爆禁止日本協議会

電話 03 5842 6031 FAX 03 5842 6033

URL <http://www10.plala.or.jp/antiatom/> Eメール antiatom55@hotmail.com 2008年4月7日 No.40

核兵器なくそう
世界青年のつどい

オルダーストン50周年平和行進報告会ひらく

21万羽おりづるピースウォークを成功させよう

「オルダーストンからヒロシマ・ナガサキへ」。核兵器なくそう・世界青年のつどい準備委員会は4月5日、オルダーストン50周年平和行進報告会を東京都内でひらき、留学生や学生など20人が参加しました。

最初にオルダーストン日本原水協代表団に参加した山崎恵里菜さん(中央大学、写真右)、椎野綾さん(東京農業大学、写真左)から報告を受けました。山崎さんは米軍巡航ミサイル格納基地のあったグリーンナムコモンから核兵器製造施設(AWE)のあるオルダーストンまで20km行進や、5000人のAWE包囲行動、学校訪問などの様子を映像で紹介。椎野さんからは、イギリス核事情の概略や、AWE包囲行動に参加していた若者へのアンケート結果などが報告されました。



つづいて、被爆者として代表団に参加した佐藤良生さん(神奈川県原爆被災者の会)から被爆体験が語られました。

参加者からは「みんなの報告が新鮮だった」、「新しいことを知って刺激になった」などの感想が出されました。

5月6日の50周年平和行進・夢の島出発集会を盛り上げ、21万羽おりづるピースウォークを成功させようと話し合われました。

北の被爆者も勝つ! 全員で勝つ! 北海道原爆訴訟支援連絡会が宣伝行動

5月19日に判決を迎える北海道原爆訴訟支援連絡会は4月6日、札幌市中央区パルコ前で勝利をめざす宣伝行動を行い、北海道原水協、中央区原水協、北海道被爆者協会などから20人が参加しました。厚生労働省の新しい審査の方針が出されてから全国はじめての判決ということもありマスコミの関心も高く、民放3局が取材した宣伝行動では、「ヒバクシャに国の補償を! 原爆症裁判の勝利を!」の横断幕を掲げ、札幌地裁に公正な判決を求める署名の協力を呼びかけました。

原告の安井晃一さん(83歳)「国は被爆の実態にあった原爆症の認定をしてほしい。被爆者の救済に力をつくすべき」と訴えました。

北海道に被爆者いるの知ってる?と声をかけると青年が気軽に足を止め署名に協力します。釧路の青年は「新聞で被爆者のことは知っていました。5月に勝つといいですね」と話していました。この日の行動で札幌地裁に提出する署名ほか3種類の署名に97人が協力しました。(北海道原水協・しまだ)

原子力空母母港化是非問う

住民投票条例制定もとめる署名

最終日、横須賀市内各地で奮闘

原子力空母母港化と安全性の是非を市民の中で問う住民投票条例の制定を求める署名行動が最終日を迎えた6日、ラストスパートとして横須賀市内各所で行動が行われました。

京急横須賀中央駅前Yデッキでは、朝から平和団体や青年たちがロングラン宣伝。43人の青年と日本原水協、東京原水協の代表を含む30人以上の平和団体からの参加で80筆以上の署名を上積みしました。

宣伝行動には着ぐるみ姿も登場し、家族連れや花見客に大きくアピール。マスメディアにも注目されました。

署名は11日に選挙管理委員会に提出されます。

5月24日(土)午後2時から横須賀市ヴェルニー公園で、原子力空母母港化の是非と安全性を問う住民投票条例の市議会採択を求める首都圏集会(仮称)が行われる予定です。